

——新規開業に際してどのような方針の下、IT化に取り組まれたのでしょうか。

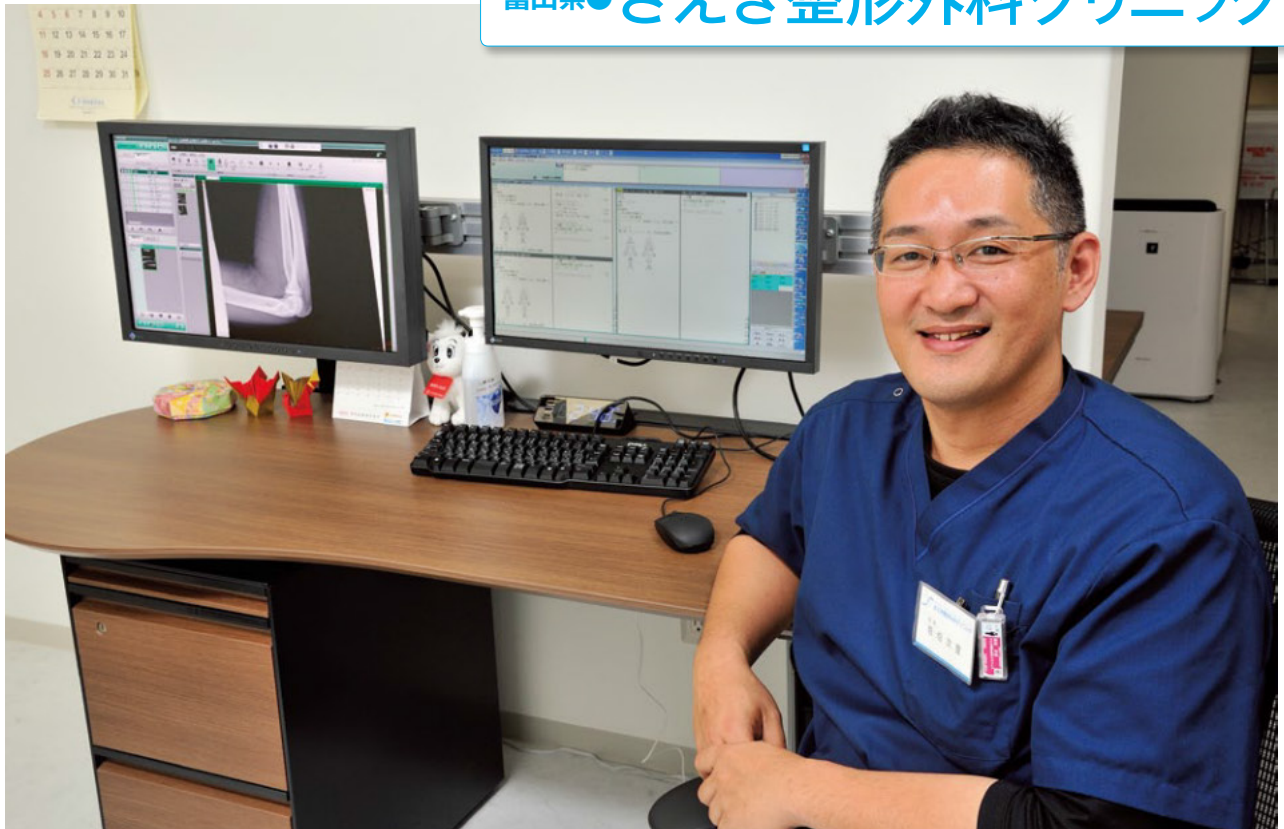
当院のIT化の第一の目的は「患者様の院内外の流れをスムーズにし、いかに患者単位の診察時間を長く取るか」という点にあります。それゆえ、予約から会計に至るまでのワークフローを電子的に一元運用する必要がありました。

また、画像が診療に欠かせない整形外科の特性上、電子カルテと画像データとの円滑な連携を最重要課題としました。その上で周辺システムを全て電子カルテとリンクさせることにより、診察以外の業務の効率化と情報の一元管理化を図りました。周辺システムとしては、診療予約システムと保険証認識装置を導入しました。なおタブレット端末を使うシステムを導入しており、患者様の問診票の入力や、看護師が診療録の閲覧や血圧等のバイタル入力などに使用しています。タブレットで入力した情報は、すぐにカルテに取り込まれ、カルテ入力の負担軽減を実現できたと自負しています。

——電子カルテの機種選定のポイントについて伺います。

いくつかの機種を比較検討し、冒頭述べた周辺システムとの接続性を第一義に熟考の末、医事一体型電子カルテシステム「Medicom-HR III（パナソニックヘルスケア

富山県●さえき整形外科クリニック



診察時間を確保するため、ワークフローを一元管理。多くのユーザーに支持されてきたPACS一体型電子カルテシステムが地域のプライマリケアを支え続ける

北陸新幹線開業を来年に控え、富山県西部 JR 高岡駅周辺では市街地の整備事業が進められている。

同駅の南西に位置する木津地区もその一つである。

地元高岡市出身の佐伯次登氏は、同地区初の整形外科医として開業。

画像ワークステーションと一体化した電子カルテシステムを導入し、

診療の質の向上と効率化を実現させて円滑なクリニック運営を行っている。

佐伯院長に、クリニックの概要と電子カルテシステムを中心とする情報システムの有用性とクリニックの展望についてインタビューした。



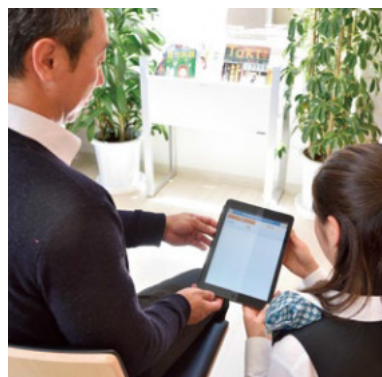
さえき整形外科クリニック

同クリニックは、発展著しい高岡市木津地区に2014年5月8日開業。同地区には整形外科医が不在だったため、地域のニーズは強く、開業初日から60名を超える外来患者が来院したという。

前から懸念していました。その点、

「直感的に使いやすい、操作の煩雑性が無い、カルテ表示が多彩かつ無駄がない」ところが電子カルテに求めた機能面の要件でしたが、「Medicom-HR III」はそれを高い水準でクリアしています。操作に関してはワンクリック感覚で情報が呼び出せる上に、シート入力も可能ですから記載もスピーディですね。

「直感的に使いやすい、操作の煩雑性が無い、カルテ表示が多彩かつ無駄がない」ところが電子カルテに求めた機能面の要件でしたが、「Medicom-HR III」はそれを高い水準でクリアしています。操作に関してはワンクリック感覚で情報が呼び出せる上に、シート入力も可能ですから記載もスピーディですね。



受付と処置室にタブレット端末を各2台設置。同端末を活用し、問診票の情報取込や処置オーダーのペーパーレス化等の効率的な診療を展開

「Medicom-HR III」と画像診断支援ワークステーションやFPDを搭載したX線撮影装置との親和性は期待以上でした。診察室の端末上から、撮影オーダーと画像の取り込みを直接X線撮影装置に入力できるため、検査は迅速に実施されています。開院から1日平均40枚以上を撮影しています。検査は滞りなく行われています。

診療データと画像情報を一元管理。ユーザー数が多いという点で信頼性を高く評価

「電子カルテの周辺システムの導入効果について、所感をお聞かせください。」

まず電子カルテのオプションで選んだ保険認識装置は、事務員の負担軽減と入力ミスの回避に確実に貢献しています。

またタブレット端末を使うシステムでの情報共有により、医師の考えや診療方針を言葉で伝えなくても看護師が即座に読み取って自発的に診察に生かしているのでも、助かっています。これらの観点からも、接続性に長けた「Medicom-HR III」を基幹とするクリニックITを構築して正解だったと実感しています。

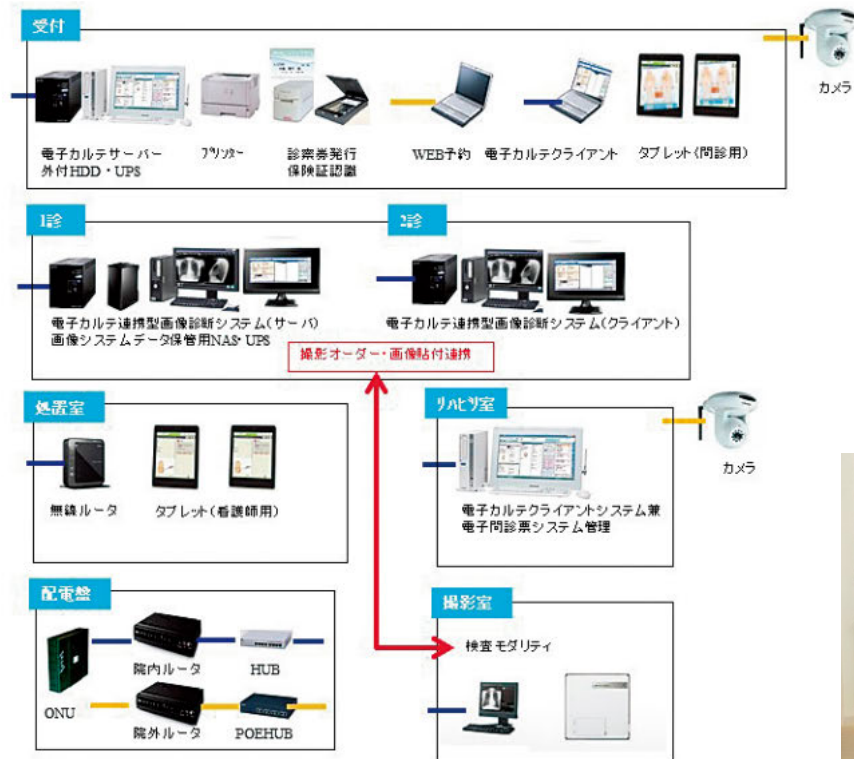
「クリニックITを今後、どのように発展させていく計画をお持ちですか。」

リハビリ関連のみ紙運用としていますが、時期をみてこの部門についてもIT化するつもりです。

またモバイル端末を使用する院外からの電子カルテアクセスの体制も整備しており、積極的に活用していきたいですね。在

宅医療用というよりも、私が院外にいるときの患者様からの問い合わせ対応としての用途を重視しての導入です。この機能もオプション選択が可能であり、このような豊富な周辺システムのラインナップも「Medicom-HR III」の選定理由の1つでしたが、ベンダが真摯にサポートしてくれましたので、積極的にITを活用していきたいと考えています。

さえき整形外科クリニック 情報システム構成図



クリニックには佐伯院長のほか、看護師3名、事務員3名が勤務。開業直後にも関わらず、毎日80名を超える患者が来院するという

医事一体型電子カルテ「Medicom-HR III (パナソニックヘルスケア)」と電子カルテ連携型画像診断支援ワークステーション「C@RNACORE」との連携による情報システムにより、診療データと画像データの一元管理と効率的な診療を実現。診察室や受付、リハビリ室のほか、タブレット端末4台を含む計8台の端末を設置している